







令和3年 **5**月の大阪森林便り

目次

今月の木の話 **巨樹の定義**

- (1)  集成材原料が最高値 4～6月 米住宅需要けん引
- (2)  国産合板が一段高 流通価格 メーカーの値上げ浸透
- (3)  アップル、森林再生ファンド 220億円、CO2削減で収益
- (4)  住宅木材、13年半ぶり高値 米で需要拡大、品不足に
- (5)  輸入合板、上昇続く 東南アジアの生産停止相次ぐ
- (6)  合板在庫0.2%減 3月末



今月の木の話

巨樹の定義

- *巨樹：地上130cmの位置で、幹回りが300cm以上ある樹。
- *地上130cmの位置までに幹が複数に分かれている場合、個々の幹回りの合計が300cm以上で主幹が200cm以上あること。
- *1991年時点で、全国の巨樹は55,798本。
これとは別に、奥山や調査不能地に68,000本の巨樹が生育すると推定されています。
- *樹種では、1位スギ13,681本、2位ケヤキ8,538本。
- *大阪府ではクスノキが群を抜く1位。
(2008年発刊 (社)大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用)



(1) **集成材原料が最高値 4～6月 米住宅需要けん引**

- *集成材の原料引き板材「ラミナ」の対日輸出価格が上昇し、最高値となりました。
- *主力の欧州産の4～6月期は、前四半期に比べ約23%高。
- *米国の旺盛な住宅需要にけん引されて木材価格が世界的に高騰。
- *コンテナ船の偏在に伴う海上運賃の上昇も響きました。
- *ラミナ価格の上昇は3四半期連続。
- *輸入量も減りそう。

新型コロナウイルス禍の物流の混乱でコンテナ不足が続いています。

スエズ運河の大型コンテナ船座礁事故の影響も重なり、日本への輸送が遅れるとの見方。

(2021年4月3日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 国産合板が一段高 流通価格 メーカーの値上げ浸透

*国産針葉樹合板の流通価格が一段と上昇。

*12月品は前月に比べて1%高。

*合板メーカーが丸太などの原料高を受けて進めた値上げが浸透。

*東北の大手合板工場で火災が起き、供給不安による先高観が生まれました。

*大手合板メーカーは、3月後半からさらに3~5%の値上げを打ち出しています。

(2021年4月6日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) アップル、森林再生ファンド

220億円、CO₂削減で収益

*米アップルは、大気中から二酸化炭素(CO₂)の削減を目指す森林再生プロスタグランジンに投資する総額2億ドル(約220億円)のファンドを設立。

*森林再生によって削減したCO₂を定量化し、排出量取引などを通じてCO₂排出が多い企業に売却することで利益を生み出す考えとみられます。

(2021年4月16日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 住宅木材、13年半ぶり高値

米で需要拡大、品不足に 国内、住宅着工遅れも

*木材の流通価格が一段と上昇。

*住宅需要が旺盛な米国に世界から木材が集まり、日本で不足。

*プレカットメーカーは、受注制限や値上げを始めています。

*集成材は、前月比16%高。2007年8月以来13年8カ月ぶりの高値。

*集成管柱も24%高。

*集成材原料のラミナの対日価格の上昇が主因。

*欧州産の梁用集成材の値上がりは3四半期連続で、最高値。

- *旺盛な住宅需要がある米国向けに輸出が増え、欧州で木材価格が上昇。
- *日本のラミナの輸入量は、前年比で2割以上落ち込んでいます。今後はさらに減る見込み。
- *新型コロナウイルスの流行長期化やスエズ運河の座礁事故に伴う物流網の混乱で、コンテナ船の入港が遅れたことも背景に。
- *集成材の2020年10~12月時点の国内生産量は前年同期比で15%減少。
- *新型コロナの影響で在宅勤務用のスペースが確保できる戸建て住宅の受注が、首都圏を中心に目立っています。
- *米松製材品も価格上昇が続いています。前月比5%高。
 - ・米松丸太が値上がりしているうえ、海上運賃も高止まり。
 - ・中国木材は昨年末以降、断続的に値上げをしています。
- *プレカットメーカーは、4月ごろから受注制限を始めました。
- *住宅の建築費用に占める木材の金額は1割程度。
(2021年4月22日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5) 輸入合板、上昇続く 東南アジアの生産停止相次ぐ

- *輸入合板の流通価格が一段高。
- *型枠用合板は、4月前半と比べ0.8%高。
 - ・輸入減により昨年末比で6.6%高い水準。2020年3月以来の高値。
- *2月の合板輸入量は、2019年比で2割以上減った2020年2月と比べ3%減少。
- *インドネシアとマレーシアのメーカーは、日本向け建築需要が減り経営難に陥ったうえ新型コロナウイルス禍が重なり、昨年からの生産停止が相次いでいます。
(2021年4月24日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(6) 合板在庫0.2%減 3月末

- *3月末の国産針葉樹合板の在庫は、113,879M3。前月比0.2%減とほぼ横ばい。
- *前年同月と比べると34.8%少なくなっています。
- *2020年上期はコロナ禍の需要減で在庫が積み上がっていましたが、ここに来て在庫の解消が鮮明に。
- *出荷量は264,121M3と、前月と比べ10.1%多くなっています。
- *杉丸太の価格が上昇傾向でメーカーは値上げを打ち出していて、先高観から需要家の購入が続きました。
(2021年4月28日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)